

カトリック六甲教会 教会報

2014

4

No.508



隣人愛、いつか結ばれる君に

主任司祭 松村信也 sj

昨年度も同じ「想定外」のことが、私たちの回りに起こりました。2011年以來「想定外」が続いていると、それはもう「想定外」とは言えない「普通」のことになるのです。しかし、「普通」にしてはあまりにもギャップが大きすぎるように思います。

どこがどうなってしまったのでしょうか？自然現象を見れば、確かにこれまでの経験をはるかに超えた現象が続きました。また人と人との間で起きる異常行動も過去の経験からでは、想像もできない事件が続きました。これほど異常現象、異常行動が続くということは、地球環境の何処かが、人間環境の何処かに何らかの変化が起きているとしか思えないような気がします。「罰が当たった」、「因果応報」、「親の因果が子に・・・」などと嘯く人もいます。しかし、それらから何の意味も見つけることはできません。

どのような環境に置かれても、この世に命を受けたものすべてには、それぞれの大切な使命があると思います。この使命こそ私たち人間にとっては「生きる意味」であって、その発見と目標に向かって歩いていくのです。そんなことを考えていたとき、ある人の言葉を思い出しました。「現象だけに振り回されて、現象が伝えようとしている大切なことに気づいていない、否、気づいていただけ忘れてしまった」。

3.11、あの日、あの時、人が生きていく中で一番大切なことは、何であるかを教えられながら、「喉元すざれば熱さを忘れて」しまったのでしょうか。異常現象、異常行動が連続すると「想定外」が伝えようとした大切なことも、「想定外」が「普通」になって、何も伝わらなくなってしまったのでしょうか。

「同情は欲しくない、同情よりもむしろ共感共有して欲しい」と被災した一人の女子高校生が言っていました。これこそキリストの教える隣人愛の根本姿勢ではないでしょうか。「同情」は一方的な通行の思い、考えであるのに対して、「共感共有」とは、相手の思い、相手の考えを自分の思い、自分の考えとして受け取り共に考え、互いに分かち合い共通理解することです。この姿勢に立つ隣人愛こそキリストの望まれる「自分を愛するように隣人を愛する」ことであり、私たちの使命「生きる意味」ではないでしょうか。

み言葉を聞き、神に向かって生きることは、一人では難しいかもしれません。しかし、家族、仲間、共同体の誰かと一緒なら不可能ではないでしょう。そのためには「心の絆」をいつも確かめておくことが大切です。家族、仲間、共同体の中での対話、思いやり、優しさは、そのつながりを確認するための大切なしるしとなるでしょう。

それを具現し日常化するために六甲教会には、地区会があるのです。地区会は、ただの連絡網の役割だけではありません。地区会の中でそれぞれの対話、思いやり、優しさを通して“つながり”を強化し、「心の絆」へと発展していくのです。勿論、愛には忍耐が付きものです。しかし、キリストの望まれる隣人愛でつながるなら、必ず、花は咲くのです。

「花はきっと咲く、いつか結ばれる君に。花は、あなたと私の心と心の絆」だから。



「ヨーロッパにおけるカトリック教会の信徒使徒職の変遷」

主任司祭 松村 信也

カトリック教会の牽引者であるヨーロッパにおける聖職者と信徒の関係の変遷を見ると、その中で信徒の積極的な使徒職の動きが見られる。

言うまでもなく、教会改革の牽引となってきたのは、ヨーロッパであり、第二バチカン公会議の変革も含めすべての公会議はヨーロッパの教会の必要に応じて、開催されたものであるということを我々は認識しておく必要がある。

これを前提として、聖職者と信徒の関係の発展段階をみると4つの段階に分けられる。それらは主として変革への多くの情熱に対して、答えがなされていたということを知ることができる。その段階とは、①強力な位階的教会と無力な信徒との間に、大きな隔たりが存在した（特に16世紀～19世紀）。②信徒が位階性の重要な助け手となる（19世紀から20世紀への変わり目の前後）。③信徒が位階的な聖職者の使徒職に参加する。つまり、信徒も使徒職の一端を担うカトリック・アクションを行う（第二次世界大戦後）。④神の民として信徒が直接に教会の使命に参加する（第二バチカン公会議以後）のである。これらの変遷の中において、信徒の使徒職の動きがみられる。

それは②の段階から始まっている：19世紀の中頃以降、ドイツでは信徒の協力をより組織的に要請する推進運動が起こり、非常に活発な団体が、それぞれの必要に応じて沢山創られていった（これらは後にヨーロッパ諸国に広がっていく）。例えば、マリア信心会のように純粋に宗教的な結社、良い本や好ましい出版物を普及するための団体、宣教を援助し移民（ラファエル会）やプロテスタント地域に散在しているカトリックを支持するための団体（ボニファティウス会）、またビンセンシオ・ア・パウロ会とその他の慈善団体、更に、カトリックの学生や芸術家の団体、殊に徒弟や農民、労働者を集めてかれらの職業的利益を守り、同時に道徳的・宗教的連帯を計るための団体が創られていた。

これらの団体の多くは信徒がリーダーとなり指導さえもしており、司祭はそれらに大幅な活動の自由を認めていた。19世紀におけるドイツのカトリック運動はしだいに聖職者との隔たりを狭めつつ発展していった。この影響は間もなくフランスに及び、益々増大していくことになった。1903年には、イエズスの聖心への特別な崇敬を誓った信徒会が、レオ13世によってローマに設置された。この信徒会の設置と初金曜日の聖体拝領の実施は、この時代を通して、聖心の崇敬と聖体の崇敬との間に存在していた密接な関係を浮き彫りにしている。そして、ピオ10世の時代になると更に頻繁な聖体拝領と子供の聖体拝領も勧められることになった。このことから端を発し、第一次世界大戦以降の典礼運動（マリア・ラーハのベネディクト会士達、特にオド・カーゼルを中心としたグループによって唱導され、カトリック青少年運動とクロスターノイブルクのピオ・パルシュの指導とによって広がっていった典礼刷新の運動）は、しだいに他のヨーロッパ諸国にも浸透し始めていった。ミサと聖体拝領、そしてまた聖書の朗読と宣教が、キリストの神秘体の実現の本質的な姿ととらえられ、小教区や種々の小グループにおいて実行されたのである。

③の段階：20世紀に入り、益々信徒の活動が活性化する。19世紀の信徒使徒職的な団体活動に加え、ピオ11世が推奨し振興した、位階制度的使徒職へ信徒が参加する「カトリック・アクション」の団体活動がある。この活動を次の教皇ピオ12世は、ピオ11世の表現を少し変えて「カトリック・アクションとは、位階制度的使徒職への信徒の協力」と定義され、使徒職を目的として作られたすべての団体に「カトリック・アクション」と言う名称を適用するとかつ承認された。これら

の団体活動は、今日においてしばしば批判的な目で見られがちである。しかし、その精神的根底に横たわる新しい教会理解は、遅々とした歩みにおいてはあったが 19 世紀の聖職者主義を克服していき、やがて教会を「神の民」と規定する定義においてその頂点を極めることになる。そしてもう一つ見落としてはならないものに、20 世紀初頭以降始まったエキュメニズム運動（教会一致運動）がある。この運動は、分離したキリスト教徒たちの接近問題に対する関心が高まり、第一次大戦直後、次の二つの運動の組織化を通じて具体化されることになった。その一つは、英国国教会的傾向の強い「信仰と職制世界会議」であり、もう一つはプロテスタント的な「生活と行動世界会議」である。これらは 1948 年に合体して、世界教会協議会を構成し、ジュネーブ事務局創設によってその頂点に達することになった。しかし、これに対してカトリック教会は長い間疎遠な態度をとり続けていた。ところが第二次世界大戦の最中、ヒトラーのドイツにおいてナチズムに対する共同戦線が、カトリック教徒と告白教会のキリスト教徒を集結させたことをきっかけに、カトリックとプロテスタントの神学者・教会人の接触と対話への道が開かれていくことになった。これが後に、カトリック・エキュメニズム評議会の設立（1951 年、スイスのフリブール）によって拡大され、教皇ヨハネ 23 世によって教皇座までもがエキュメニカルな思考に向けて開かれる日の到来を準備していくこととなったのである。

このように多くの信徒の団体や組織、その中でも JOC（カトリック青年労働者連盟）やイタリア、フランス、ドイツ、イギリスにおけるカトリック・アクション、そしてローマにおけるピオ 12 世のもとでの信徒使徒職評議会といった運動は、信徒自らの情熱と要求とに応ずるものとして起こったのである。それゆえ、これらの変化は時宜にかなったものとして高く評価され、情熱をもって実践へと移され、そして新たな変化のための土壌が準備されていったのである。ここに日本のカトリック教会との相違がみられる。

日本においても、迫害の江戸時代末期における同宿、看坊といった組講や、明治時代の女部屋、浦上十字会、大正時代における公教青年会、昭和時代に入ってカトリック・アクション等がみられるが、いずれも聖職者の厳しい指導下に置かれた下働きの役割として行われていた信徒による使徒職にすぎない。つまり聖職者側から一方的に押しつけられた信徒の使徒職であったと考えられる。

ヨーロッパにみられる信徒自らの要求は、聖職者の考える狭い求心的思考（個人が救われるために教会に入る）によって、別の世界を作るのではなく、現在生きている社会と共に歩みながら、より良い社会に変革していくことが重要であると判断し、そのためには、教会そのものが変革されなければならないと考えたからであろう。

近年においてこの考えは、ヨーロッパだけでなく、アメリカ合衆国、南米諸国においても急速に高まった。その結果、教会の新しい自己理解と、現代世界に対する教会の新しい方向づけの必要性から、第二バチカン公会議が開催されるに至ったと考えられるであろう。勿論、公会議開催の理由は、これだけではないかも知れない。しかし、公会議公文書の内容は、教会内の改革とともに、世界の発展から生じた様々な問題に向けられている。

「全世界に広がっている神の民が必要としていることに無関心であってはならない。特に物質的な援助、あるいは人的な援助を提供して、宣教活動を自分の任務としなければならない」（信徒使徒職に関する教令 10 項）と教会の諸団体に向けて述べられている。

第二バチカン公会議に端を発する新たな刷新の息吹きは、教会史の中で聖職者、修道者、信徒といういつの間にか区切られた枠を取り除いて、もう一度、初代教会に戻って同じ「神の民」としての全体像を取り戻し、キリストとその花嫁たる教会の愛のダイナミズムによって歩むありかたを促している。

忘れないで！

～東日本の被災地から～

各地で沢山の追悼行事が行われ、ご冥福が祈られました

東日本大震災からまる3年が経ちました。被災地の一つ、私たちの南相馬とその近辺だけでも、たくさんの追悼集会があり、私たちは忙しくめぐり歩きました。

カトリック原町教会は3月9日の四旬節第一主日のミサで犠牲となられた方々の追悼をしました。そして3月11日には、午後2時からCTVC（カトリック東京ボランティアセンター）の企画で、東京四ツ谷のイグナチオ教会と、南相馬市小高区（避難指示解除準備区域＝家に帰れるようにはなつたが、泊まることは許されていない地域）の同慶寺を同時中継で結んで追悼集会が行なわれました。私たち fmm（マリアの宣教者フランシスコ修道会）は大家さんの奥様の車に乗せていただいで行きました。奥様は同慶寺に入るのは初めて、と仰っていましたが、お友達もお誘いしたら5人来てくださったようでした。中には、実家のお嫁さんが、津波に流されて犠牲になったご家族も来ておられて、この日は午前中に海に行つて祈つて来られたそうです。



山下町。祭壇前の地面に竹灯籠で「希」が描かれていました。

会場には同慶寺（曹洞宗）の住職さんやネパールからこられたという僧侶の方々、仏教の聖職者数名とたくさんの日本人・外国の方々が参加しておられ、テゼの歌を歌い、仏教の聖歌を歌い、住職さんの法話があり、カトリックと仏教と、異なる宗教の方々が同じ目的で、同じ場所で祈る、とても落ち着いたひとときを過ごしました。

お寺での式のあと、海岸に場所を移して祈りが行われました。お天気が良く、海はとても穏やかで美しかったのですが、海岸は3年前と同じく、波にのまれて跡形もなくなった家の土台だけが残っていたり、倒れた墓石がころがっていたり、見るのも辛いものがありました。

夜は国道6号線を北にのぼり、福島県を出て宮城県に入った所の亘理（わたり）にある山下町と坂元町に行き、真っ暗な中に竹灯籠がたくさん灯されている祭壇の前で「サルベ・レジナ」を歌ってきました。地元の方々がずっと祭壇を見守っておられました。



そして、12日には、午後2時から原町教会で「世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会」の「東日本大震災の追討と鎮魂ならびに復興合同祈願式」が行われました。カトリック・清水寺・黒住教・浄土真宗本願寺派・日本聖公会・日本ムスリム協会・妙智會教団・立正佼成会の代表の方々が、カトリックの祭壇の前で、それぞれの祈りをなさいました。いつもはそれぞれの神様や仏さまの前で祈っておられる方々が、この時はカトリックの教会の祭壇の前でそれぞれの祈りをなさる。このような場に居合わせたことがなかったので、とても新鮮で、「いいなあ」と思いました。

一連の追悼行事の最後は私たちの原町教会主催で行われた「いのちの光 3・15 フクシマ」
The Day of Option for LIFE in FUKUSHIMA でした。事故を起こした原発に最も近い原町教会は、
3月15日の爆発のことをしっかりと記憶しなければならないという主任司祭のお考えに信徒たち
が同意して開催されました。地元の方のお話・太田道子さんのお話・平賀司教様司式のミサで構
成されており、全国から約80名の方々の参加がありました。

南相馬では、除染で出た廃棄物を仮置きする施設が次々と作られています。この膨大な量の
廃棄物を、一体どのようにして保管し続けて行くのでしょうか。一日も早い、事故の収束を真剣
に祈り続けなければなりません。同時に、収束のために働いておられる方々のためにも心をこめ
て祈り続けていかなければ、と思います。 (小沢)

※広報部ではシリーズ「忘れないで！東日本の被災地から」への原稿を募集しています。被災地
でのボランティア活動に限らず、遠く神戸からの支援活動や被災地への思い等、皆さまからのご寄
稿お待ちしております。 (広報部)

～．

「2013年度第5回小教区評議会」議事録

日 時：2014年3月16日（日）11：15～12：30 場所：第4会議室
出席者：松村主任司祭 議長団 評議員（欠席 片柳助任司祭 青年会）

議 題：

（報告事項）

- ① 3月度神戸地区評議会
- ② 地区役員会
- ③ 教会学校夏季キャンプ
- ③ 神戸市民クリスマス
- ⑤ 「音楽チーム」(旧オルガンチーム)
- ⑥その他 各部、各会からの報告
広 報 部
施設管理部
社会活動部
宣教養成部
教 会 学 校



（協議事項）

- ・「2014年度小教区評議会予算」

以上

『洗礼志願式』(3月9日)

松村主任司祭司式のもと、今年の復活祭に受洗される7名の方々の洗礼志願式が行われました。主イエスの死と復活にあずかる恵みを願い、四旬節の良い準備ができますように。また新しい仲間を迎える私たち共同体も心新たに信仰を深めることができますように。

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

『インターネットが拓く新・福音宣教セミナー』(3月15日)

3月15日(土)午後2時からカトリック神戸中央教会で「教会とインターネット」セミナーを開催しました。数か月前に東京のSIGNIS Japanの副会長土屋氏からフェイスブックのつながりで私に呼びかけがあり、今回初めて関西で行われることになりました。(関東では既に司教を中心に18回行われている)初めての試みなので準備する私は一抹の不安がありましたが、私と同じ教会の信徒代表飯塚さんが土屋氏と中・高校の同期生と言うこともあって手助けしてくださり、何とか開催にこぎつけることが出来ました。当日はカトリックやプロテスタントのいろいろな教会や関東からも数名の参加者があり、60名ばかりの集会となりました。

セミナーの冒頭にSIGNIS Japanからの発題として土屋氏による「Social Networkが拓く可能性」についてのプレゼンがあり、次いでインターネットを宣教の一つの道具としてフルに活用されている片柳神父が、「デジタル大陸での宣教」について具体例を提示しながら1時間近く熱く語られました。

休憩後、それを受けてパネルディスカッションが始まりましたが、パネラーとして大阪教区の川邨神父、プロテスタントの波勢氏(キリスト教ネットメディア研究所)、六甲教会信徒のこいずみさん、そして片柳神父も加わり、それぞれのインターネットの関わりについて意見を述べた後、フロアからも数名の活発な意見や質問が出され、時の経つのも忘れる程の熱の入ったものとなりました。

片柳神父は、インターネットに出来るのは「福音の種」を広く人々の心に蒔くところまでで、蒔かれた種を育て刈り取るのはやはり現実世界の教会だろうと言われています。

セミナーが終わって感じたのは、インターネットツールをどのように活用してうまく福音宣教に結び付けていくかは、それを使う人の問題でもあり、インターネット社会に生きる我々の問題でもあるのではないだろうかと言うことです。



(広報部 蛭田)

教会学校 春の錬成会報告 『アットホーム』(3月15日～16日)

3月15日から16日にかけて、姫路にある淳心の家で錬成会をしました。去年は高学年対象でしたが、今回は小学1年から5年まで、子供たち13人が参加してくれました。

「アットホーム」というテーマのもと、友達の輪の大切さについて学びました。小学生にとって「アットホーム」という言葉は、聞いたことはあるけど、実際に使ったことは少ないようでした。なんとなく感じはつかめていたようですが、子供たちは漠然としたイメージしか持っておらず、いろいろなプログラムを通して、感じたり、考えたりしました。

これから大きくなっていく子供たちは、様々な困難に立ち向かうことになるでしょう。時には自分一人ではどうすることもできない難題にぶち当たることもあるでしょう。そんな時に、子供たちの背中を押してくれるのは、家族はもちろんですが、仲間だと思います。ともに喜びや悲しみを共感してくれる仲間です。そのような仲間とはどこで出会うのでしょうか。私は、教会学校が一つの出会いの場であると思います。普段の教会学校や、今回のような錬成会、夏のキャンプを通して、子供たちはかけがえのない友達の輪を広げていくことができると思います。今の教会学校は、仲間を大切に「アットホーム」な雰囲気を経験してきた人たちが積み重ねてきたからこそ、存在するので

子供たちには、この教会学校の「アットホーム」な雰囲気を大切にしてほしいです。今は普通のことのように感じて、成長して大きくなったとき、その大切さがわかり、それを次の教会学校の世代につなげてくれたらと思います。

最後になりましたが、教会学校の子供たち及び保護者の皆様、ともに錬成会を作り上げた教会学校のリーダーたち、すべての関係者に感謝いたします。本当にありがとうございました。

(チーフリーダー 須藤)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

『三日月会』(3月17日)

年度末の三日月会に4月に転勤される片柳神父様にご出席されてメッセージを下さいました。

「一日のうちにたった5分でも祈るなら、残りの23時間55分の質がまったくかわります」とか「意味があるから生きるのではありません、生きるからこそ意味がうまれるのです」などと言った神父さまのお言葉が書かれたカードがみんなに配られとても感動しました。

次に会員の船井氏の「中国よもやま話」という講話もとてもおもしろかったです。「胡弓」とか「胡椒」などという「胡」という文字は中国では「西の方から来た」ことを表す。博学多才の船井氏にはびっくりしましたが、おとなりの中国とはもっと仲良くなれる日が早く来れば良いのになあと思いました。

(三日月会会長 鈴木)

★音楽チームより★



「第11回 祈りと音楽の集い ～イースターチャント～」

✦ 日時： 2014年4月20日（日） 11:30 ✦ 場所： 主聖堂

＜音楽チームの紹介＞

はじめまして！音楽チームです。

この度、音楽奉仕のグループをひとつにまとめることにしました。聖歌隊、オルガン奉仕者、聖歌独唱奉仕者、オルガンチームが一緒になって「音楽チーム」として新しいスタートを切ります。

今まで、「オルガンチーム」は、オルガンの維持、管理、オルガン奉仕者育成、メディテーションなどオルガンを使った活動を行っていました。4月からの「音楽チーム」は聖歌隊、音楽関係奉仕者とともに、典礼音楽を含め、教会の音楽に関することの全般を担当することになりました。

具体的には、①オルガンの維持管理 ②典礼での奉仕 ③オルガン奉仕、独唱者養成 ④冠婚葬祭での奉仕 ⑤「祈りと音楽の集い」などを通じた啓蒙活動 などの活動をしながら、教会の音楽全般を支えていきたいと思っています。

また4月からは「オルガンメディテーション」も目的を明確にするために名称を「祈りと音楽の集い」に変更します。

典礼を音楽で支え、また、音楽による宣教も目指すことができればと思っています。ご理解とご協力をお願いします。（三浦）

★教会学校たより★

2014年度 夏のキャンプのお知らせ

今年度も教会学校では下記の要領にて夏のキャンプを実施致します。今年のキャンプは神戸地区の11小教区が参加する合同キャンプとなります。この合同キャンプには福島からのお友達も「ふっこのうの架け橋プロジェクト」の呼びかけで参加がある予定です。

また、7月26日（土）にキャンプ準備会（場所中央教会、10時から16時まで）を行います。キャンプに向けた事前準備プログラムやイベントを予定していますので、キャンプに参加する児童・生徒は必ずキャンプ準備会にご参加下さい。詳細についてはキャンプに参加申込み頂いた方に後日プリントを配布致します。

記

日時： 8月8日（金）～8月11日（月）

場所： 八伏山北側山麓（通称「ハチ北」） 兎和野高原
兵庫県立兎和野高原野外教育センター（管理運営香美町）
第2キャンプ場及び早瀬キャンプ場

対象： 教会学校に所属する小学生及び教会中高生会に所属する中学生

費用： 1人 8000円

兄弟姉妹2人目～ 5000円

*申込書提出の締切日は5月3日（土）です。

申込書は教会学校のリーダー等より教会学校の入学式・始業式の日以降に配布される予定です。



教会学校 大橋

★手作りコーナーからのご報告★

教会の活動の一つとして毎月第3日曜日、イグナチオホールで手作りのお弁当、寿司、ケーキ、手芸品など販売しています。基本メンバーは10名ですが、毎回お手製のケーキ、パン、ジャム、手製カード、お米など信徒の皆様からご寄付を頂いています。一方で信徒の方々にお買い上げ頂き、温かいご支援にメンバー一同厚くお礼申し上げます。前年度の収益金は、旅路の里、Sr.小沢(東北震災支援)、アフリカ友援の会、六甲教会、各団体に寄付させて頂きましたことをご報告いたします。これからも皆様のお気持ちを支えに細々ながらこの活動を続けて参りたいと思っています。共同体の方々との交わりの中で祈りながら活動できますようお願いしております。本年度もよろしくお願い申し上げます。

感謝と祈りのうちに 手作りコーナー一同

～．

《 図書室からのお知らせ 》 2014年3月に入った図書から

☆ **バカだからうまくいく12の法則** —— チャ・ドンヨプ サンマーク出版
バカにされないようにと必死になっていませんか？ 妄想しよう！ のろまでいこう！ 常識を疑おう！ ミリオンセラー作家のカリスマ神父が語るバカの哲学 (本の腰帯より)



☆ **まだ見えなくてもあなたの道は必ずある** —CD付き— 古木 涼子 著 青春出版
全国の教会や学校、被災地で歌われ 多くの涙と感動を呼んでいる歌をご存じですか？
生きていてくれて本当にありがとうございます、大切な人に伝えてほしい。「いのち」「クレド」・・・

☆ **南相馬10日間の医療** —— 太田 圭祐 著 時事通信社
「先生、やれるところまでやりましょう」ほぼ全員の意見が「救急医療を維持」で一致していた。……この非常事態に、誰もが「自分も何かしなければ」という思いから自主的に協力し、1人の医療従事者として全力を尽くそうとしていた。(本文より抜粋) Sr.小沢に寄贈いただきました。

☆ **クリスマスおもしろ事典** —— 日本キリスト教団出版局
アイスランドのサンタは13人。 ツリーとリースはどっちが古い。 乳香と没薬はどう違う。クリスマスは憲法違反。 世界の国のクリスマスの呼び方。・・・クリスマスを楽しくする雑学本

☆ **すべての民の御母のメッセージ**
—— アムステルダムすべての民の御母協会 エンデルレ書店
主イエスキリスト 御父の御子よ。 あなたの霊を今 全地の上に遣わしてください。
すべての民が墮落、災害、戦争から守られるよう すべての民の心に聖霊を住まわせて下さい。
かつてマリアであられた全ての民の御母が、わたしたちの執りなし手でありますように
アーメン (本文扉から)

☆ **教皇フランシスコの素顔** DVD 45分 —— サンパウロ
生い立ちから、教皇フランシスコの誕生までを、彼をよく知る7人の証言を織り交ぜ、貴重な映像とともに詳細にレポート。彼は教皇としてどのようなカリスマ性を発揮するのだろうか。

☆ **チャレンジ！ 聖書クイズ32** —— 土屋 至 著
聖書に書かれた場面や内容について、素朴な質問 32題。 君はもっと聖書を読みたくなる！？！

感謝を込めて

主任司祭 松村信也 sj



2009年6月1日、山口から東京経由、一ヶ月半遅れでここ六甲教会に着任。着任当時は病み上がり、大勢の皆様の祈りと温かい援助に支えられ、なんとか半人前に奉仕をさせて戴くことができました。そして、二年目、三年目何とか一人前に奉仕が出きるようになった途端に、異動の声がかかり十分に恩返しできないまま、2014年のご復活を最後に長崎へ移ることになりました。

在任中、皆様に対して失礼なことが多々あったと思いますが、どうぞ皆様の寛大な御心を期待するとともに、数少なかつたけれど良いこともあったと思いますので、どうぞそれに免じてお許し願えれば幸いです。

六甲での四年十ヶ月は、本当に「光陰矢の如し」でした。歳をとったせいもありますが、頑固で性急な性分から毎日小さなことから大きなことまで改革に余念がありませんでした。私流に言い換えれば「それだけ六甲教会を愛していた」ということです。

少しでも良くしたい、良くなって欲しい。そのためには「これもしたい、あれもしたい」そんな毎日でした。新しい地区会のおかげで六甲教会の信徒名簿が整理され、また新たな地区会によって信徒間の交流を通して活性化へと動き始めています。勿論、その為に大勢の皆様のご協力がありました。協力なくして何もできないということも、十二分に知りましたし、同時に六甲教会の信徒の皆様との協働レベルの高さに敬服させられました。当教会の人材の豊かさもさる事ながら、素晴らしいタレントのある方々からの温かい協力は、何よりもすべてを推進していく中での大きな原動力でした。

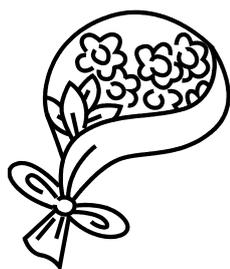
この教会は、正直、日本全国に散在するカトリック教会の中でもトップクラスに入る模範的な教会であると信じています。勿論、それに対して揶揄される方はいます。そのような方々は、教会活動にほとんど参加されないで外から眺めておられ、内実をご自身の目でご覧にならないからでしょう。どうぞ批判的な目で斜めからご覧になるだけでなく、是非、あなたのタレントを教会行事、教会活動のご奉仕を通して参画願えれば、きっとまた違ったご意見を戴けるものと信じます。六甲教会には、沢山の優しい、暖かいぬくもりの器があることに驚かされますよ。この素晴らしい六甲の特色をこれからも生かし、若い世代に継承して戴けることをお願いします。

「対話、思いやり、優しさのつながり」、この絆をこれからも六甲教会の宝として育てていかれることを期待します。こんな不完全でいい加減な神父をいつも支えてくださった皆様に、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。 “God bless you Rokko,”



どうぞお祈りください

助任司祭 片柳弘史



2008年3月に着任して以来、6年が過ぎました。あのとき教会学校に1年生として入ってきた子どもたちが、この春からは中学生。助任司祭として奉仕させて頂いてきたわたしも、この春からは主任司祭として新たな地に旅立つことになりました。時の流れの速さを感じずにいられません。

皆さんの祈りに支えられ、司祭としての第一歩を踏み出すことができたことを心から感謝しています。わたしたち教会で働く司祭の第一の務めは、信徒の皆さんのためにお祈りすることですが、

司祭にも皆さんのお祈りが必要です。司祭として生きる日々は、まるでイエス様の呼びかけにこたえて湖の上を歩いていくような営みで、少しでも疑えばバランスを崩して沈んでしまいます。たびたび沈みかけながらもここまで6年間なんとかやって来られたのは、イエス様が手を差し伸べて引き上げて下さったこと、皆さんが前後左右からわたしの歩みを祈りで支えて下さったことのお蔭だと思っています。

新任地の宇部では、3つの教会の主任司祭、3つの幼稚園の園長補佐として奉仕させていただくこととなります。歩み続けるためには、さらに奇跡的な恵みが必要になることは間違いありません。どうぞ今後ともお祈りください。わたしも、引き続き皆さんのためにお祈りさせていただきます。



司祭歡送迎会のお知らせ

4月13日(日)10時ミサ後 片柳神父様送別会

4月27日(日)10時ミサ後 松村神父様送別会
セゴビア神父様/高山神父様歓迎会

場所:両日ともイグナチオホール

みなさまのご参加をお待ちしています。



◆ 四旬節のお知らせ ◆

- 4月 4 日(金) 10 時 初金 ミサ、十字架の道行き
4月 6 日(日) 10 時 四旬節第5主日 ミサ(共同回心式)
4月 11 日(金) 10 時 ミサ、十字架の道行き (共同回心式に与れなかった方の告解)

◆ 聖週間の典礼 ◆

† 受難の主日 [4月13日(日)] 10 時のミサで、枝の行列を行います。

4月12日19時及び13日7時30分は簡単な入堂で枝の祝別を行います。(通常のミサ形式)

† 受難の水曜日 [4月16日(水)] 聖香油ミサ 11 時 カテドラルにて

† 聖木曜日 [4月17日(木)] 主の晩餐のミサ 19 時

最後の晩餐を記念して洗足式を行い、仕え合うことの大切さを教えられます。
ご聖体が安置されますので、ご聖体の前でお祈りください。(21 時で施錠します)

† 聖金曜日 [4月18日(金)] 主の受難の祭儀 19 時

キリストの受難と死を思い起す受難の祭儀、十字架礼拝が行われます。

† 復活徹夜祭 [4月19日(土)] 復活徹夜祭 19 時

死から命へと過ぎ越したキリストを盛大に記念し、洗礼式が行われます。



† 復活の主日 [4月20日(日)] 復活の主日 7 時 30 分、10 時

特に聖なる過ぎ越しの三日間〔4月17日～19日〕は教会典礼上の頂点であり、私たちの信仰生活と主の救いの業をあらわす最も大切な祭儀です。私たちの救いのために十字架にかけられたキリストの死と復活を思い できるだけ参加しましょう。なお朝7時のミサはありません。

教会報5月号の発行は、5月4日(日)です。
編集会議4月27日(日)です。
記事原稿は、4月20日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。(広報部)
<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
電 話	078-851-2846
F A X	078-851-9023
発行責任者	松 村 信 也
編 集 広 報 部	